

和泊町史年表

和泊町史年表

村 栄 政 美 編

西 暦	年 号	時 代	町 村 島 長 長 治 者	事 項
五九三 六〇〇 六〇三 六〇四 六四五	推古 元 推古 八 十一 十二 大化 元	飛鳥時代		<p>聖徳太子が摂政となる。 このころ、按司が発生する。(沖縄) 聖徳太子が冠位十二階を定める。 聖徳太子が十七条の憲法を定める。 大化の改新 このころ、多禰(たね)、夜玖(やく)、菴美(あまみ)などがよく大和に入貢していた。</p>
七〇一 七〇二	大宝 元 大宝 二	奈良時代		<p>大宝律令ができた。 多禰(たね)の隼人が反乱を起こした。 この乱がしずめられて後、戸籍法がしかれた。 「古事記」ができた。 大隅の国が置かれた。 南島人二三人に位を授ける。「日本書記」が完成。 南の島に島名や距離などを書いた札を立て、遣唐使の便をはかった。 和気清麻呂が大隅に流された。</p>

一四〇〇 八二四 八九四 一一六〇 一一七七 一一八五	延暦 十九 天長 元 寛平 六 永暦 元 治承 元 文治 元	平安時代
一一九二 一二六〇 一二六六 一三一四	建久 三 文応 元 文永 三 正和 三	鎌倉時代
一三五〇 一三九五 一四一六	正平 五 応永 二 応永二十三	室町時代
一四二九 一四五八 一四六六 一五三七 一五四三 一五四九	永享 元 長祿 二 文正 元 天文 六 十二 十八	大屋子時代
世之主		<p>大隅・薩摩に班田を行う。 多禰国が廃止され、大隅に属することになった。 遣唐使を廃止する。 源頼朝、伊豆に流される。 僧都俊寛など、鬼界島に流される。 平家滅亡。平資盛、有盛、行盛ら逃れて鬼界島に着く。 源頼朝、征夷大將軍となる。 琉球英祖王即位する。 大島など、初めて琉球に入貢。 このころから三山が対立する。 琉球察度即位して中山王となる。 世之主、このころ島主になる。 北山滅亡。 世之主このころ自殺と推定さる。 尚巴志、三山を統一。 護佐丸の乱。阿麻和利の乱。 尚徳王、喜界島を討つ。 尚清王、大島を討つ。 ポルトガル船、種子島に流れつく。鉄砲伝来。 フランシスコ・ザビエル、鹿児島に上陸。キリスト教伝来。</p>

一五七二	元龜二	一六〇〇	慶長五	一六〇五	十	一六〇九	十四	一六一〇	十五	一六一三	十八	一六一六	二	一六二二	九	一六九〇	三	一七八六	六	一八〇〇	十二	一八一〇	七	
江戸時代													安土桃山時代											
与人時代			奉公時代 島役用人時代			大屋子時代																		
<p>尚元王、大島を征服する。</p> <p>関ヶ原の戦い。</p> <p>からいも琉球に伝わる。</p> <p>薩摩藩が琉球をくだし、大島、徳之島、喜界島、沖永良部島・与論島を直轄琉球検地をおえる。</p> <p>直川智が大島大和浜で砂糖きびを試植する。</p> <p>薩摩藩、大島の代官を任命する。</p> <p>大島に奉行を置き、道之島全体を管轄させる。</p> <p>徳之島奉行を置き、徳之島、沖永良部島、与論島を管轄させる。</p> <p>沖永良部の行政区画を三間切（大城間切、喜美留間切、徳時間切）とし、与人三名をおき、また掟、目差、筆子の副役をおいた。</p> <p>儀間真常を福建に派し、製糖法を学ばせる。</p> <p>徳之島と分立して代官ならびに附役三名を本島定詰にし、与論は本島に属した。</p> <p>沖永良部の人口調査をする。（九、一四五人）</p> <p>人口調査（九、五〇八人）</p> <p>麻疹流行し、多数の死者が出た。</p> <p>文化、文政のころ、和泊の薫尾子（とうびし、安永八年生、安政元年逝去、享年七十六、余多、有川薫尾子の曾祖父）と、手々知名の盛平（大坪盛徳曾祖父）は、甘蔗苗を徳之島から求めて挿植し製法を伝習した。</p>																								

一八三〇	天保元	一八三五	六	一八五七	四	一八五八	五	一八五九	六	江戸時代												
与人時代										与人時代												
<p>調所笑左衛門、財政改革一切の責任を委任され、この年、大島・喜界・徳之島三島の砂糖惣買入れを始めた。砂糖の専売である。</p> <p>永良部、与論に麻疹流行し、多数の死者が出る。</p> <p>従来与人役所は、和泊村の三カ所にあつて、大城間切、喜美留間切、久志検間切と称した。大城間切は、和泊、和、大城、赤嶺、田舎平、後蘭、下城、田皆、島尻、屋子母、瀬利覚の十一村。喜美留間切は、手々知名、出花、畦布、根折、玉城、内城、瀬名、永嶺、上城、大津勘、知名、上平川、下平川、皆川の十四村。久志検間切は、喜美留、国頭、西原、古里、久志検、余多、屋者、芦清良、黒貫、徳時、馬鹿の十一村であつた。大城間切、喜美留間切、久志検間切を和泊方、東方、西方と改称した。</p> <p>和泊方は、和泊、手々知名、喜美留、国頭、西原、出花、畦布、根折、内城、大城、皆川、古里、玉城、和の十四カ村。</p> <p>東方は、余多、屋者、上平川、下平川、芦清良、黒貫、瀬利覚、知名、屋子母、大津勘、徳時の十一カ村。</p> <p>西方は、瀬名、永嶺、田皆、馬鹿（正名）、島尻、下城、上城、田舎平（谷山）、後蘭、久志検、赤嶺の十一カ村。</p> <p>与人役所を、和泊（東北端）、芦清良（東北端）、上城（東端）に移転した。</p> <p>伊延港築造。</p> <p>沖永良部島人口調査、一一、九七五人（男五、六一七人、女六、三五八人）、郷士格四家部九三人。流罪人九五五人。</p>																						

一八七三	一八七二	一八六九 一八七一	一八六六	一八六三 一八六四	一八六〇 一八六二
六	五	明治 四二	慶応 二	元治 元三	万延 文久 二元
明治時代			江戸時代		
与人時代					
<p>従来甘藷は赤白の二種類であったが、琉球より「サンダ種」を移植する。大暴風あり。徳之島犬田布騒動あり。西郷隆盛、本島に禁錮せられる。義盛、与人に任せられる。初めて全島に種痘を行う。政照、与人に任せられる。西郷隆盛、帰鹿する。甘藷新品種「赤カンダ」および「鳥島」を、琉球より求めて植える。沖永良部島人口調査、一三、三三六六（男六、三四六六、女六、九九〇人）。郷土格九三人。流罪人七五人。</p> <p>高千穂神社建立。 人口調査、一四、四六三人（男六、八六六六、女七、四七一人）。世之主・四並蔵神社建立。ヒダワシ解放。女子の入れ墨の習慣が禁ぜられた。弁天を厳島、金毘羅を大物主、天神を菅原神社と改号する。廃藩置県。暴風により民家、伊延波止、西方役所大破し、西方役所を田舎平へ移転する。砂糖二二三万斤産す。 戸籍調査 太陰暦を廃し、太陽暦を使うようになる。 人口調査、一四、七二七人</p>					

一八七九	一八七八	一八七六 一八七七	一八七五 一八七四
十二	十一	十九	明治 七八
明治時代			
戸長時代			
<p>戸長土持政照がランプを東京から持ってきた。与人を戸長、間切横目を副戸長と改称する。与論島、沖永良部から独立する。貨幣融通開始。鮫島中属支庁長となる。沖島曾謙、操坦裁、沖利有、戸長に任命。東西二戸長役所を和泊方に合併。初めて学校設置。平民にも名字使用が許される。商店開始。撰玄碩戸長に任せられる。島尻暗川の入り口修築。福永信治、支庁長となる。西南の役起こる。全島に十七の小学校を設置。和泊学校（和泊）、国頭学校（国頭）、畦布学校（畦布）、花実学校（西原）、玉城学校（玉城）、内城学校（内城）、皆川学校（皆川）、余多学校（余多）、平川学校（上平川）、清良学校（菅清良）、覚知学校（瀬利覚）、徳風学校（大津勘）、島尻学校（住吉）、田皆学校（田皆）、下城学校（下城）、後蘭学校（後蘭）、永誉学校（永嶺）の十七校。女童の就学が始まる。風葬が禁止され埋葬に改められた。郵便局設置。琉球に沖縄県を置く。大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島をもって大島郡とした。</p>			

一八八〇	明治	十三
一八八一		十四
一八八二		十五
一八八三		十六
一八八四		十七
一八八五		十八

明治時代

戸長時代

郡役所を名瀬に置き、各支庁を廃して郡役所出張所を置いた。
郡長心得郡書記・向井新兵衛。郡書記・土持政照、操坦哉。
全島を十二区に分割、各戸に戸長を置く。
沖島曾謙（国頭役場）、沖利有（和泊役場）、撰玄碩（手々知名役場）、
沖利経（玉城役場）、町田実矩（大津勘役場）、安藤佳竹（田皆役場）、
東一元（内城役場）、市来惟信（上城役場）、矢野忠正（芦清良役場）、
本城宗元（瀬利覚役場）、甲東生（後蘭役場）、操坦勁（余多役場）
全島を六区に改割し、各戸に戸長を置く。事務は、和泊役場一カ所で取り扱う。
畦布村、喜美留村に疑似コレラ流行し、死者二十数名を出す。
和泊正則小学校に初等科と、中等科が設けられた。
全島三ヶ方に復旧、三戸長となる。正則小学校全焼、社倉資金で和泊に病院が
できた。
大島郡役所の各島出張所が廃止された。
沖永良部徴兵適令者受検大島出頭の始まり。（二六四名）
大島郡役所を廃止し、支庁を設置した。
戸長所轄を二区分して、
一つは和泊村ほか十七村、戸長役場を和泊村に置く。
一つは知名村ほか十七村、戸長役場を知名村に置く。
節検申合により、生年祝、年日祝などを廃止する。
徴兵により、和村・大吉政宜志、畦布村・森里宜志入営する。

一八八七	明治	二十
一八八八		二十一
一八八九		二十二
一八九〇		二十三
一八九一		二十四
一八九二		二十五
一八九三		二十六
一八九四		二十七
一八九五		二十八

明治時代

戸長時代

全島を和泊、知名の両方に分かち、各所在地に役場を置く。
和泊村ほか、十七村戸長・土持政照
知名村ほか、十七村戸長・操坦勁 } それぞれ任命
巡査派出所設置する。
このころより改良鉄車流行する。
全島戸籍改正・戸数三、三二六戸。人口一八、七二七人（男九、一三三人、
女九、五九四人）
大日本帝国憲法発布。
教育勅語発布。沖永良部高等学校設立。
屋者にカナダ船漂着。
大島各島定期航海開始。（朝日丸で月一回）
甘蔗「読谷山種」このころより普及する。
カナダ政府より望遠鏡をおくられる。
山内県知事および大島信衆議院議員来島する。
沖永良部警察分署設置。正義会同志会が対立する。
操坦勁和泊村戸長に、沖利経知名村戸長に、それぞれ任命される。
日清戦争が起こり、初めて出征軍人あり。
大島分教場設立。
台風襲来。

一九一七	一九一六	一九一五	一九一四	一九一三	一九一三	一九一〇	一九一一	一九一二
六	五	四	三	二	大正元	四十五	四十三	四十四
大正時代					明治時代			
土持綱義村長					土持綱安村長			
<p>九月十三日兼久原において和泊村遙拝式。 土持綱義和泊村長に、龍田佐隆史知名村長に任命される。 風疹流行。与和港開さく工事。 百合価格暴騰。新納直定知名村長となる。 昭憲皇太后崩御。欧州大戦始まる。第三十五議會解散。 田中省三、本郡より代議士に選出される。 新納政吉、県會議員に再選される。 御大札に付き、三日間大祝。和泊記念棧橋築造。百合暴落。 夏降雨続きのため甘庶未曾有の繁茂。永嶺線里道成る。 和泊村青年団成立。 第五部青年団発会式挙行。 林為良、代議士となる。</p>					<p>知名白浜港において、平安座人の佐多巡查殺し事件あり。 坂本元明、代議士となる。 福岡富隆、知名村長に任命される。 南洲神社に西郷文庫設けられる。 韓国併合。販売組合与和倉庫人工石をもって建設。 和泊尋常高等小学校新築開校。腸チフス流行。 大地震あり。 明治天皇崩御。</p>			

一九〇八	一九〇七	一九〇六	一九〇五	一九〇三	一九〇二	一九〇一	一九〇〇	一八九九	一八九八	一八九七	一八九六
四十一	四十	三十九	三十八	三十六	三十五	三十四	三十三	三十二	三十一	三十	明治二十九
明治時代											
	戸長時代										
<p>和泊に大島区裁判所が置かれ、登記事務を行う。 和泊、知名両方とも道路一新の大修繕をなす。 知名郵便局設置。 和泊知名各尋常小学校新築。 徳之島、和泊間に海底電線敷設。九月一日から電報取り扱い開始。 大暴風雨襲来。日根野侍従が勅使として来島。 社会解散される。 沖永良部高等小学校が、和泊高等小学校、知名高等小学校に分かれる。 二月十二日、沖永良部に初めて雪が降った。 操坦勤、知名方戸長に任命される。 南洲神社および南洲記念碑建立。 沖島曾徳、和泊村戸長に任命される。 郡品評会展覧会、和泊において開催。 土持綱安、和泊戸長に任命。 小米港口暗礁除去工事起工。 土持政照彰徳碑建立。 百合栽培始まる。大島信用販売購合認可。 下城沖泊道路竣工。 島嶼町村制施行。六年制義務教育実施。和泊知名間に電話開通。 和泊村長に土持綱安、知名村長に操坦勤、それぞれ任命される。</p>											

一九四〇	一九三九	一九三八	一九三六	一九三五	一九三四	一九三二	一九三一	一九三〇	一九二九	一九二八
十五	十四	十三	十二	十一	十	九	七	六	五	四
										昭和

昭和時代

山下兼道 村長	皆川恵三 村長	重信饒 丕村長	山口禎 善村長	沖島曾徳 村長
山下兼道、和泊村長となる。 日独伊三国同盟成立。 紀元二千六百年奉祝行事あり。	安田森信、知名村長になる。 小学校で健児団の訓練が盛んになった。	和泊、知名両村に青年学校が創設された。 皆川恵三、和泊村長となる。 明治四十五年以來小学校に設置されていた高等科三年が廃止された。 日華事変起こる。 国家総動員法成立。張鼓峰事件起こる。	重信饒丕、和泊村長となる。	このころ初めて、沖永良部に自動車きた。 吉松総照、知名村長となる。甘蔗「大茎種」が試植された。 沖永良部電気株式会社（発電所古里）が点灯を開始した。 県議沖元綱、小米港で遭難死去。 満州事変起こる。 上海事変起こる。山口禎善、和泊村長となる。 百合生産過剰のため百万余球を海に投ず。百合騒動あり。 学校で、石盤石筆時代が消えた。

一九二七	一九二六	一九二五	一九二四	一九二三	一九二二	一九二一	一九二〇	一九一九	一九一八
二	元	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八
	昭和								大正

大正時代

沖島曾徳 村長	沖元綱 村長	
大島島庁が廃止され大島支庁となる。 沖永良部分署が沖永良部警察署に昇格。 天皇、奄美大島行幸。沖元綱、県議員となる。 伊延に南洲上陸記念碑建立。	初めて飛行機が島の上空を飛んだ。 沖島曾徳の頌徳碑が後蘭に立てられた。 大島警察署沖永良部分署新築移転。 知名局に無線新設。知名与論間無線電信開始。 大島区裁判所知名出張所開庁。 大島東震災。和泊港の開さく工事を行う。 沖島曾徳、和泊村長となる。東前広、知名村長となる。 内喜名港開さく工事。 普通選挙法公布。このころから米の二期作が普及する。 大正天皇崩御。	国頭大城線里道成る。紬業繁盛。 戦後景気により、百合砂糖高値。南洲橋、余多橋竣工。 大島郡に町村制が布かれ、町村会議員が選挙により選出され、議員により町村長が選出されるようになった。 沖元綱、和泊村長となる。

一九四一	昭和十六
一九四三	十八
一九四四	十九
一九四五	二十
一九四六	二十一
一九四七	二十二
一九四八	二十三
一九四九	二十四

昭和時代

東仲一町長	山下兼道町長
-------	--------

太平洋戦争起こる。学制改革により小学校が国民学校となる。和泊村に町制施行（初代町長山下兼道）。昭和橋竣工。アツツ島玉砕、ガダルカナル島撤退。東仲一、和泊町長となる。

知名に米潜水艦からの砲撃があった。島にエラブ守備隊が駐屯した。米国機による空襲が始まった。日本本土が空襲を受けるようになった。

第二次世界大戦終了。藤村前吉、知名村長となる。二月二日をもって鹿児島県から分離し、米軍政府下におかれた。大島支庁は臨時北部南西諸島政庁と改称され、支庁長は知事と改められる。（初代知事、豊島至氏）

知名村に町制施行。

臨時北部南西諸島知事豊島至、知名で病死。後任に中江実孝が任命された。四月、六・三・三制の学制が実施され、国民学校が小学校になり、中学校が新設され、和泊一中、二中、三中、知名中、下平川中、田皆中が創立された。南西諸島の決定通貨をB票として切り替えをした。

知名藤村前吉町長再選。

沖永良部警察署落成する。北大島対南大島の相撲大会が高千穂で行われた。戦後初めて、百合球根を積んで金十九本土へ出航。

琉球政府統計事務所設置。沖永良部高等学校創設。

一九五〇	昭和二十五
一九五一	二十六
一九五二	二十七
一九五三	二十八
一九五四	二十九

昭和時代

東仲一町長

市町村制公布

臨時北部南西諸島政庁を奄美群島政府と改称。奄美群島政府知事に中江実孝再選される。

奄美群島議員選挙。吉松軍八当選。大山に米軍基地が置かれる。

復帰協議会が生まれ、活発な運動が行われる。

沖永良部高等学校が現在地に移転統合される。戦後再び電灯がついた。琉球銀行沖永良部支店創設。サンフランシスコ対日講和条約調印。

群島政府が廃止され、琉球政府が発足する。知名に沖永良部測候所開設。

岡本経良知名町長となる。十島村が日本へ復帰する。十二月、ダレス声明により奄美大島日本復帰なる。

琉銀支店が鹿銀支店になる。

農業改良普及所動物検疫所置かれる。統計事務所日本政府に引き継がれる。

沖永良部高等学校創立となる。

重村中久、第三代和泊町長となる。保岡武久、衆議院議員当選。食糧事務所税関出張所置かれる。

奄美群島復興特別措置法公布。

一九六二	昭和三十七
一九六三	三十八
一九六四	三十九
一九六五	四十
一九六六	四十一
一九六七	四十二

昭和時代

武田 恵喜光 町長

簡易水道給水開始（四五七戸）
町長に武田恵喜光再選される。
奄美興発(株)と共和産商(株)が合併して南栄糖業(株)となる。
知名町役場庁舎完成。
昼間送電実施。異常寒波および異常干ばつあり。
昇竜洞発見される。世之主神社、南洲神社改築。
入国管理事務所出張所に昇格。
和泊市街地の護岸工事完成。伝染病棟建設。
高千穂神社、菅原神社鉄筋に改築。
奄美群島振興特別措置法公布。
和泊中学校に屋内運動場完成。六月、電気昼夜送電なる。
NHKテレビ中継塔、大山に完成。
大平武雄、知名町長となる。
町長に、武田恵喜光三選される。
城ヶ丘中学校に屋内運動場完成。
名瀬土木出張所沖永良部工事詰所、沖永良部土木出張所へ昇格。
和泊町中央公民館落成。金毘羅神社改築。
沖永良部空港着工。NHKテレビ中継局開局。
農業構造改喜事業始まる。
知名に国民宿舎えらぶ荘完成。和泊町議会議事堂完成。

一九五五	昭和三十
一九五六	三十一
一九五七	三十二
一九五八	三十三
一九五九	三十四
一九六〇	三十五
一九六一	三十六

昭和時代

武田 恵喜光 町長

重村 中久 町長

和泊港改修工事始まる。
大型製糖工場帝国物産、屋子母に設立。
名瀬工事事務所沖永良部土木工事詰所設置。
鹿児島入国管理事務所、和泊駐在員を置く。
「沖永良部郷土史料」発行。
沖永良部バス運行開始。
奄美興発KK和泊に設立。
和泊一中と三中が統合して和泊中学校に、二中が城ヶ丘中学校になった。
第四代町長に武田恵喜光就任。
和泊町役場、和泊郵便局、和泊小学校、それぞれ現敷地へ移転する。
土木改良事業始まる。家畜保健所置かれる。
神川盛蔵、知名町長となる。岡本経良、県議会議員当選。
簡易水道、畦布揚水施設工事着工。
このころからNCO(甘蔗)が普及した。
知名町大山に茶工場完成。
国民健康保険事業始まる。町内全校完全給食実施。
抛出制国民年金事業開始。義宮様御来島。
第一回港まつりが開かれる。赤地信、知名町長となる。
第二室戸台風(十八号)来襲、被害を受ける。
福祉駐在所が福祉事務所となる。

一九七三	昭和四十八
一九七四	四十九

昭和時代

武田恵喜光町長

NHKカラー放送の中継開始。保岡興治、衆議院議員当選。
 大島地区総合社会教育研究大会開催される。
 大山米軍基地が航空自衛隊に移管。
 「老人いこいの家」完成。和泊港背後地埋立工事竣工。
 大城小学校屋内運動場完成。
 国頭小学校に「汐ほす母の像」完成。
 常陸宮殿下、妃殿下御来島。
 南栄糖業KK知名工場閉鎖。きび価格大幅引き上げ総決起大会。
 第一回老人クラブ運動会。
 沖永良部島電報電話局開局、ダイヤル通話開始。
 三〇〇トン級船舶「ひかり」和泊港初接岸。
 知名町長に大平武雄三選される。(無投票当選)
 県合同庁舎手々知名に竣工。
 町長に武田恵喜光五選される。
 第一回フリージア全国キャラバン隊出発。
 五〇〇トン級船舶「神戸丸」和泊港に初接岸。
 第十八回奄美群島市町村議会議員大会開催。
 鹿銀沖永良部支店強盗事件。
 六〇〇トン級船舶「クイーンコラル」和泊港に初接岸。
 内城小学校体育館完成。

一九六八	昭和四十三
一九六九	四十四
一九七〇	四十五
一九七一	四十六
一九七二	四十七

昭和時代

武田恵喜光町長

大島紬織工教習所開設。
 明治百年記念事業として、町章、町民歌、町民憲章制定。
 国の合同庁舎竣工。住民基本台帳法施行。
 衆議院議員補欠選挙(保岡武久当選)。町民プール完成。
 奄美群島振興特別措置法改定延長。
 沖永良部空港開港。大阪航空局沖永良部空港出張所設置。
 沖永良部測候所設置。沖永良部畜産センター完成。
 和泊町奨学資金貸付制度発足。
 知名町長に大平武雄再選される。
 町長に武田恵喜光四選される。和泊町総合振興計画策定。
 「沖永良部観光と物産展」、鹿児島市山形屋テ。パートで開催。
 和泊港に一五〇〇トン級船舶(あまみ丸)初接岸。
 県営圃場整備事業着工。町全域に水道布設。
 城ヶ丘中学校にプール完成。
 ミカンコミバエ防除事業始まる。農村地域集団電話開通。
 過疎地域振興計画策定。和泊港背後地埋立工事着工。
 町単敬老年金制度創設。
 国頭部落に、へき地保健福祉館完成。
 県営圃場整備事業完成。空港―知名間県道舗装工事完成。
 給食センター完成。農業振興地域の指定受ける。

一九七五	昭和五十
一九七六	五十一
一九七七	五十二
一九七八	五十三

昭和時代

武田恵喜光町長

陸上自衛隊による道路新設工事竣工。(和―根折線)
 徳永運輸大臣一行和泊港等視察。
 和泊保育所開設。
 七〇〇トン級船舶「クイーンコーラル2」初就航。
 第十七回奄美群島福祉大会開催。
 第二十九回県民体育大会第十六回大島地区大会開催。
 知事と語る会。玉城生活館完成。
 農業後継者育成大会。
 和泊町港湾、空港拡張整備促進期成会発足。
 町民体育館着工。越山焼却炉着工。
 天皇在位五十周年。和泊港待合所完成。
 沖永良部空港に自衛隊ジェット機初着陸。
 衆議院議員選挙。(保岡興治当選)
 和泊町民体育館完成。
 特別養護老人ホーム(白ゆりの園)完成。
 ユニチカ女子バレーボールチーム来町。
 沖永良部台風(九号)来襲し、全島に壊滅的被害を及ぼす。
 西郷南洲没後百周年記念行事。畦布生活館完成。
 知名町長選挙(林 安盛当選)
 町長に武田恵喜光六選。

一九七九	昭和五十四
一九八〇	五十五

昭和時代

武田恵喜光町長

柔剣道場落成。伊延集会所落成。
 南洲神社境内に西郷南洲像建立。
 復帰二五周年記念式典。越山公園開き。
 大島地区駅伝大会開催。谷山生活館完成。
 仁志生活改善センター完成。
 民放テレビ(MBC・KTS)開局。
 伊延港改修工事着工。
 南西航空、沖永良部―那覇間開航。
 「防災の日」(九月九日)制定。第一回町民歩こう会。
 古里生活館落成。
 町立図書館完成。国頭保育所落成。
 後蘭コミュニティセンター落成。
 町制施行四十周年記念式典。
 農村情報無線開局。町立図書館開館。
 町花「てっぽうゆり」、町木「ガジュマル」指定。
 「教育の町」「交通安全の町」宣言。
 ミカンコミバエ解禁。
 「自然環境保全条例」制定。
 新農業構造改善事業多目的研修館(和泊町研修センター)着工。
 過疎地域振興計画(五十五年度～五十九年度)策定。

一九八三	昭和五十八
昭 和 時 代	
武田恵喜光町長	
<p>和泊町研修センター竣工。 沖永良部与論地区消防組合発足。 大城保育所開設（これにより全校区に認可保育所が完成）。 フラワー都市交流連絡協議会発足。 和泊町（鹿児島県） 砺波市（富山県） 長井市（山形県） 下田市（静岡県） 松くい虫初の航空防除。 農村集落多目的共同利用施設落成。</p>	

一九八二	五十七	一九八一	昭和五十六
昭 和 時 代			
武 田 恵 喜 光 町 長			
<p>第二次和泊町総合振興計画策定。 水道創設二〇周年記念式典。 越山頂上に戦没者慰霊塔建立。 有機物供給センター完成。 第一回「フリージアフェスティバル」開催。 五〇〇〇トン級船舶「あかつき」初就航。 第三五回県民体育大会第二二回大島地区大会開催。 第一回大島地区肉用牛共進会開催。 初の土曜夜市開催。 第一回身障者母子福祉スポーツ大会開催。 町長に武田恵喜光七選される。 奄美群島地区植樹祭。（高千穂神社にて） 第一回「フリージアジョギング大会」開催。 和泊保育所増築落成。 第九回県少年スポーツ大会大島地区大会開催。 大島地区輸送野菜生産推進大会開催。 ウリミバエ不妊虫、初の空中放飼。 五〇〇〇トン級船舶「ニュークイーンコーラル」初就航。 地域別家庭教育総合セミナー開催。 知名町長選挙（日吉得蔵当選）</p>			